

R4 感染レベルに応じた教育活動について(R4.6.14 最新)

1 遠足・集団宿泊的行事（修学旅行・自然教室等）について

種別	国（県）の評価レベル	4～3	2	1～0
	市(文科)の感染レベル	レベル3	レベル2	レベル1
(1) 宿泊を伴う行事		・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されている場合は実施を延期する。 ・レベル3の状況下で旅行を実施する場合は宿泊せず、日帰り旅行に変更する。 ・宿泊を伴わない旅行とした場合は、予算や年間計画が許す範囲で2日分の活動を実施する。（お別れ遠足やバス旅行など） ※できる限り、旅行が実施されるよう配慮する。	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されている場合は実施を延期する。 ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されていない場合は、旅行の実施を前提として、宿泊の可否を検討する。 ・レベル2の状況下で宿泊の伴う旅行とする場合は、地域だけでなく目的地の感染状況も鑑み、必要に応じて目的地の変更も検討する。 ※目的地の変更は、校長会小学校部会確認事項に基づき、各校で適切な代替地を設定する。	・レベル2と同様 ※次年度の修学旅行は、宿泊を前提とした取組を計画する。
		修学旅行に関しては、保護者のみならず地域社会の関心も非常に高いことから、伊東市全体を視野に入れる必要がある。そこで、修学旅行に係る重要な決定や変更（特に宿泊の有無）は、市教委の助言を仰ぎながら校長会小学校部会が判断・決定し、市内全ての学校で同一歩調が取れるようにする。		
(2) 貸し切りバス（遠足やジオの見学）を利用した日帰りの行事		・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されている場合は、実施を延期する。 ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されていない場合は、校内の感染状況を踏まえ、実施の可否を校内で判断する。 ・レベル3の状況下で実施する場合は、十分な感染症対策の実施を前提とし、保護者の理解を得た上で実施する。	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されている場合は、実施を延期する。 ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されていない場合は、実施可能とする。 ※十分な感染対策を行うとともに、感染リスクを低減できる工夫は積極的に行う。	
(3) その他		・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されている場合は、実施を延期する。 ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されていない場合は、地域及び校内の感染状況を踏まえ、実施の可否を校内で判断する。 ※電車や路線バスで移動する取組は、不特定多数の乗客と接触するため、貸し切りバスより感染リスクが高まることから、原則的にはレベル2に下がってからの実施としたい。やむを得ない事情がある場合は、十分な感染対策を行い、感染リスクを低減できる方法で実施する。	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されている場合は、実施を延期する。 ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令されていない場合は、実施可能とする。 ※十分な感染対策を行うとともに、感染リスクを低減できる工夫は積極的に行う。	

2 「感染症対策を講じてもなお感染リスクが高い学習活動」などの取り組み方について

種別	国（県）の評価レベル	4 ～ 3	2	1 ～ 0
	市(文科)の感染レベル	レベル3	レベル2	レベル1
（１）教育活動全般				
① 一斉に大きな声で話す活動	・一斉に大きな声を発声する活動（音読など）は、十分な間隔をとれても行わない。	・換気がされた屋内で、マスクを必ず着用し、前後左右の距離（できるだけ2 m、最低1 m）をとった上での実施は可能とする。 ・大きな声を発し続ける活動（音読や合唱練習など）は、時間や人数を絞ったり、グループ別を実施したりするなど、積極的に工夫する。	・換気、マスクの着用、身体的距離の確保（できるだけ2 m、最低1 m）、手洗いなど、基本的な感染症対策は継続した上で実施する。	
② 始業・終業等のあいさつ	・当番などが号令をかけ、一斉に発声するあいさつはしない。（号令に合わせ、黙礼をするなど） ※個別のあいさつは、これまでと同様に奨励する。			
（２）各教科等の授業				
① グループワーク	・必要最低限の回数や時間に抑える。 ・10 分以上継続して活動しない。 ・身体的距離（最低1 m、できれば2 m）を確保して活動する。 ※濃厚接触者の判断に「マスクをはずして1 m程度の距離で 15 分以上の会話」とあるので、1 mは身体的距離を確保したい。	・短時間で、身体的距離（最低1 m、できれば2 m）をとり、対面にならないように工夫しながら実施する。 ※濃厚接触者の判断に「マスクをはずして1 m程度の距離で 15 分以上の会話」とあるので、活動時間は 15 分以内におさえたい。	・換気、マスクの着用、身体的距離の確保（できるだけ2 m、最低1 m）、手洗いなど、基本的な感染症対策を継続した上で実施する。 ・活動の内容によっては、授業前や後などに手指消毒を取り入れる。 ※対面を避けることや時間・人数を絞るなどの工夫は、無理なく取り入れられる範囲で取り組む。	
② 理科や生活科等の実験・観察	・身体的距離（最低1 m、できれば2 m）をとって行う。 ※間隔がとれないような活動や活動の仕方は避ける。	・レベル3 と同様		
③ 音楽の合唱	・あいさつと同様、実施を見合わせる。	・換気がされた屋内で、マスクを必ず着用し、前後左右の距離（できるだけ2 m、最低1 m）をとった上での実施は可能とする。 ・時間や人数を絞ること、短時間に限定すること、グループ別の実施にすることなど、実施可能な工夫を積極的に行う。		
④ 音楽のリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏	・感染リスクが大変高い活動なので行わない。	・換気がされた屋内で、前後左右の距離（できるだけ2 m、最低1 m）をとった上での実施は可能とする。 ・時間や人数を絞ること、短時間に限定すること、グループ別の実施にすることなど、実施可能な工夫を積極的に行う。		
③合唱及び④管楽器演奏について レベル1においては、体育授業と同様「可能な限りの感染症対策を行った上で通常の活動を実施するよう適宜検討」に変更することも考えられたが、音楽授業は屋内の活動であり、体育授業以上に高リスクであることや低学年児童の発達段階等を勘案し、レベル1においてもレベル2の同等の取組にすることとした。				
⑤ 生活・社会・総合・図工等の共同制作	・身体的距離（最低1 m、できれば2 m）をとって行う。 ※間隔がとれないような活動や活動の仕方は避ける。	・レベル3 と同様	・換気、マスクの着用、身体的距離の確保（できるだけ2 m、最低1 m）、手洗いなど、基本的な感染症対策を継続した上で実施する。 ・活動の内容によっては、授業前や後などに手指消毒を取り入れる。 ※対面を避けることや時間・人数を絞るなどの工夫は、無理なく取り入れられる範囲で取り組む。	
⑥ 家庭科の調理実習	・調理だけでなく、調理後の会食にも感染リスクがあるため、調理実習は行わない。 ※給食と異なり、実施時期を変えることが可能なので、レベル3 の状況下では実施を避ける。	・換気、マスクの着用、身体的距離（最低1 m、できれば2 m）の確保、手洗いを徹底した上で、時間を絞ったり、対面にならないような工夫をしたりしながらの実施は可能とする。		

⑦ 体育授業 (水泳も含む)	マスク	・熱中症予防のため、不必要な会話や発声をしないこと及び周囲と十分な距離（2 m以上）を確保することを指導した上で、マスクを外すようにする。 ※活動する上で、会話が避けられない場合や距離が取れない場合はマスクの着用を推奨する。 ・教師は、原則として体育の授業中もマスクを着用する。 ※身体へのリスクがあると判断したり、指導のために自ら運動したりする場合などは、マスクを外しても問題ない。ただし、児童との間隔を2 m以上は空けたい。 ・児童生徒がマスクの着用を希望する場合は、その着用を否定するものではない。		
		・着替え、移動、片付け、教師の話を聞いたり、話し合ったり場面など、活動内容に応じて可能な限りマスクを着用させる。	・地域や校内の感染状況によってはレベル3の対応を参照した取り組みを実施する。	
	高リスクな運動	・児童が「密集する運動」や「近距離で組み合う運動」、「接触する運動」は実施しない。	・児童が「密集する運動」や「近距離で組み合う運動」、「接触する運動」、「向かい合って発声する運動」で可能なものは避け、実施する場合は、一定の距離（最低1 m、できれば2 m。水泳の場合、できれば2 m以上）を保ち、同じ方向を向くようにし、回数や時間を絞るなどする。	・可能な限りの感染症対策を行った上で通常の活動を実施するよう適宜検討する。 ※体育授業での<u>感染症対策</u>は以下の4点とする。 ① 換気（体育館） ② 身体的距離の確保 ③ 不必要な会話や発声をなくす ④ 手洗い、消毒 ※レベル1においても、無条件で高リスクな運動を実施するのではなく、校内の感染状況を踏まえ、実施の可否を協議した上で、可能なら実施をする。
	用具など	・器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の手洗いを徹底する。 ※消毒については、放課後等の消毒の範囲内で実施する。 ・私物（帽子やタオル、ゴーグル等）の貸し借りは禁止し、取り違えにも十分注意をさせる。		
	その他	・個別の運動（遊び）を取り上げ、「〇〇は実施可能」や「□□は実施不可」とすることには危険がある。同じ運動であっても、環境（場の設定）や人数によって感染リスクは大きく変わるし、安全と思われる運動（遊び）であっても、運動の仕方（ルールや活動内容など）によっては危険な取組になることもある。そこで、各レベルに即した教育活動は、文部科学省等の通知を踏まえ、以下の6つの原則に基づき定めた。 6つの原則 ・感染状況や活動内容に応じたマスクの着用 ・十分な距離の確保 ・同じ方向や時間、回数などの工夫 ・不必要な私語や発声、大声の回避 ・手洗いの徹底 ・密集、近距離での組み合わせ、接触の回避 各校において、記述外の事項で、具体的な取り組み方を示さねばならない場合も、校内の状況は踏まえた上で、上述した6つの原則に基づく取組を実施する。		
⑧ 外国語・外国語活動		・活動内容を考えると、一斉に大きな声を発したり（発音や歌など）、グループや個人が関わり合ったりする活動（アクティビティーなど）が中心になり、音楽などと同じように感染リスクが高いので行わない。	・マスクを着用し、できるだけ距離をとりながら（最低1 m）、大声にならないように実施する。 ・アクティビティでは、時間や人数を絞るなど、積極的に工夫をする。	・換気、マスクの着用、身体的距離の確保（できるだけ2 m、最低1 m）、手洗いなど、基本的な感染症対策を継続した上で実施する。 ・活動の内容によっては、授業前や後などに手指消毒を取り入れる。 ※対面を避けることや時間・人数を絞るなどの工夫は、無理なく取り入れられる範囲で取り組む。

3 その他の教育活動等への取り組み方について

種別	国（県）の評価レベル	4～3	2	1～0
	市(文科)の感染レベル	レベル3	レベル2	レベル1
① 給食		・感染リスクをより低減するために、給食当番はビニール手袋を着用して配膳する。 ・配膳する教師等もビニール手袋を着用する。 ・牛乳パックリサイクル活動は中止する。	・ビニール手袋は着用せず、基本的な感染症対策（手洗い、手指消毒、黙食、食事後のマスク着用など）を徹底する。 ・牛乳パックリサイクル活動は中止する。	・ビニール手袋は着用せず、基本的な感染症対策（手洗い、手指消毒、黙食、食事後のマスク着用など）を徹底する。 ・牛乳パックリサイクルを実施する。
② 休み時間の過ごし方		・熱中症予防のため、会話をしないこと及び十分な距離（2 m以上）を確保することを指導した上で、マスクを外すようにする。（体育授業と同様） ※会話が避けられない場合や距離が取れない場合はマスクの着用を推奨する。 ※遊びの内容については、体育授業を参照のこと。		
③ 登下校				
④ 外部講師等を招いて実施する取組		・感染リスクの高いものは延期や中止をする。また、特に必要性の高い取組は実施するが、取組方法を工夫し、感染リスクを低減しながら実施できるようにする。	・講師等には十分な感染対策にご協力をいただくことを前提に実施可能とする。	・検温や健康観察を実施していただき、体調がすぐれない場合は来校を遠慮していただく。また、来校時には、マスクの着用や手指消毒など、基本的な感染症対策を実施していただく。 ※時間や人数の制限などの取組は、無理なく取り入れられる範囲で取り組む。
⑤ 参観会等の保護者が来校・参画する取組			・保護者が来校する取組も原則実施可能とするが、感染防止対策への協力を強く呼びかける。 ・来校者の人数制限や取組方法等の工夫等をしてもお感染リスクが低減できない場合は、学校長の判断で当面の間、取組を延期する。	
⑥ 集会・行事（卒業式を除く）		・委員会活動や縦割り活動も含め、一堂に会したり、異学年と交流したりする活動は延期や中止とする。	・集会や行事の実施は可能だが、換気、マスクの着用、身体的距離の確保（できるだけ2 m、最低1 m、お互いの体が接触するような活動は行わない）など、基本的な感染症対策に取り組んだ上で実施する。 ・身体的距離が確保できない場合は、時間や人数を絞ったり、複数の教室を活用して分散型にしたりするなど、実施方法を工夫するか、屋外で実施する。	・体育館に集合して実施する場合は、換気、マスクの着用、身体的距離の確保（できるだけ2 m、最低1 mは確保、お互いの体が接触するような活動は行わない）など、基本的な感染症対策に取り組んだ上で実施する。 ※レベル1であっても、身体的距離の確保が難しい場合は、レベル2と同様、実施方法を工夫するか、屋外で実施する。
⑦ 放課後等の消毒		・よく手を触れる場所（ドアノブ、手すり、スイッチなど）は1日1回程度の消毒とし、過度な消毒にしないよう配慮する。 ・トイレや洗面所、床は通常の清掃活動で対応し、特別な消毒はしない。 ・器具や用具など、共用する物は、物の消毒ではなく、使用前後の手洗いを徹底する。 ※清掃により清潔な空間を保ち、健康な生活により免疫力を高め、手洗いを徹底する。		・原則的に、放課後等の特別な消毒は必要ない。 ※校内の状況やその日に行った活動によっては実施してもよい。

参考資料

確保したい周囲との距離

場合	確保する距離
マスクを着用している場合	最低 1 m、できれば 2 m
マスクを着用していない場合	2 m以上

マスク着用の考え方 ※確保する距離は2m以上とする。

場所	会話	距離(2m以上)	マスク	場所	会話	距離(2m以上)	マスク
屋外	なし	とれる	必要なし	屋内	なし	とれる	必要なし
		とれない	必要なし			とれない	着用を推奨
	あり	とれる	必要なし		あり	とれる	着用を推奨
		とれない	着用を推奨			とれない	着用